

(1) 安全安心対策について

意見 (要約)
感染対策を実施している事業者が貼りだせるようなステッカー・標示等を迅速に配布する。
県から説明のあった安心・安全の取組は、秋保・作並でも先行的に行おうと思っていた取組であるので、ぜひ早急にチェック表の作成等に取り組んでほしい。
安全対策は全国どこでもやっている。それをいかに安心につなげるか、マインドの部分が大変。
安全安心対策コストへの支援。安全安心対策（宮城県としての具体的な取組み）の情報発信が必要。
感染症対策をした上で営業している旨をSNSや宮城・山形・福島3県の顧客へのがきによる案内でPRし、ようやくお客様が来てくれつつある。
安全安心対策を実施したものの、情報発信ができていない。
感染防止対策の徹底に向けた設備投資への補助など、受入態勢の整備が必要。
宮城は安全・安心だという取組を、デジタル等を活用し早急に対応すべき。
各施設等の新型コロナの安全対策について、圏域としてもっとPRしてはどうか。「新たなもてなし」について、みんなで考え、作っていくという取組みが必要。
感染症が発生してしまった場合にどのように対応していくのか具体化して示してほしい。気仙沼・本吉地域の医療体制が脆弱なのは否めない事実なので、地域の受け入れる方への対策も考えてほしい。
感染対策の基準や、イベント開催の判断指標を示す。
県民に安心感を与える対策をきちんと実施しているという情報を発信して欲しい。
今後コロナが再び発生した際にどのように対応するか検討をすべき。
安全・安心がキーワードだとすると、住んでいる人がそう思わなければならない。
空港としても安心の取組の設備投資や空港で発生した感染者の受入体制などの準備が必要。
観光バス三密を避けるため増便の必要性があり、補助制度など手厚い支援が必要。
防災と観光の視点、観光客受け入れのための安心・安全の可視化が必要。

課題・論点
安心安全対策を迅速に行う必要がある
安心・安全の可視化が必要
安全安心対策の情報発信が必要
安全安心対策の徹底に向けた設備投資の補助が必要
安全安心をデジタルを活用して対応していくべき
安全対策についてPRし、新たなもてなしの取組が必要
感染症発生時の対応策が必要
感染対策の基準やイベント開催の判断指標が必要
再流行に備えた準備が必要
住んでいる人が安全安心だと思わなければならない

取組の視点
<b>安全安心対策・見える化</b>
【各圏域からのアイデア例】
(全体、仙南、仙台、大崎、栗原、登米、石巻、気仙沼・本吉) ○安全安心対策の実施・可視化・情報発信等
(全体) ○デジタルを活用した安全安心対策 ○三密回避のためのバス増便への補助
(仙南、仙台) ○安全安心対策コスト・設備投資への支援
(仙台) ○感染対策基準・イベント開催判断指標の策定
(石巻) ○安全安心の可視化・圏域全体の情報発信
(気仙沼・本吉) ○コロナ発生時の対応・地域の受入対策

(2) 域内流動や地域資源の磨き上げについて

意見 (要約)
クラウドファンディング2割増しではインパクトに欠ける。企業側に負担を求めた方がいいので、もっとインパクトのある設計してほしい。
朝方観光にシフトするべき。(景観、朝風呂、朝食、ランチ)
地域から見たときに、仙台を重要なマーケットとして捉えるべき。
松島と比較し、石巻の強みは海産物等の「食(食べ物)」ではないか。
仙台七夕祭りなど、多くのイベントが中止になったが、再開あるいは別な形で実施できるよう支援を検討してほしい。
栗原地域は、もともと宿泊客が少ないので、観光コンテンツの充実を先に考えた方が、効果大きいのではと考えている。
圏域の観光資源をどのように発信していくかが課題。
観光資源の原石はたくさんあるが、磨き上げが必要。
東松島市の他にはない特徴としてSDGs未来都市、「スポーツ健康都市宣言」や防災・観光教育施設などがあり、関係者が連携して取り組むことが必要。
小さな観光が豊富にあることが大事で、全員がプレーヤーとして一体となって取り組むことが必要。
教育旅行の関東から東北への方面変更など問合せが増えてきており、バス利用の際の三密回避のため台数増による経費増が見込まれることから、インパクトのある助成をお願いしたい。
近隣地域との連携により、観光客を周遊できるようにしたい。また、地元の人に地域の魅力を知ってもらえるような取組みが必要である。
CF事業は、複雑で利用しづらく事業者の規模や情報発信力により差が出る可能性がある。割引券の発行等分かりやすい支援策にすべきである。
圏域から出られないということであれば、圏域内の移動が重視されてよいのでは。30分から1時間の間で行き来できるような圏域内で完結する観光も大事と思う。
コロナからの回復のため、まずは県内・国内の需要喚起から始めるべき。これまで海外に行っていた人が、今後は国内に目を向ける可能性がある。
県南と県北で交流するなど、県内全域に広げていくことが重要。
仙台市は、転入者が毎年それぞれ4万人を超えている。転入者は新しい見込み客となる。転出した方は転出先で宮城県、東北を発信していただければ有効なピーアールとなる。
広域的に食材などをテーマに同時イベント開催などで観光客を呼んでほしい。
公共施設(博物館・美術館等)や公共交通機関への補助や無料化を実施し、街歩きを促す。
今後の観光戦略としては、着地施策を中心に構成するべき。
自転車の移動も多いことから、サイクルツーリズムを呼び込むべき。
無担保融資等はあるが、あくまで延命措置なので、バス事業に特化した支援が必要。
震災や今回のコロナの影響により借入金は増大しており、影響が長引いた場合、半年から1年後に事業が成り立っているのか心配。
県内や東北のお客様に対し、宮城の魅力を県や地元の間がどんどんSNS等で発信するなどの話題作りが必要。
地元で田植え体験等、地元の方々が楽しめるような、地元の方々のモチベーションを上げていく取組みを続けていくと、他の地域や外向けの良いPRになるのでは。
地元の人が地域の魅力を知り、その魅力に対するシビックプライドを持つことで、一人一人が「観光マン」となるような機運を醸成する啓発活動を実施する。

課題・論点
地域の強みを活かした取組が必要(「食」など)
イベント再開等の支援が必要
観光資源の情報発信が必要
観光資源の磨き上げが必要
観光資源を活かし地域が一体となって取り組むことが必要
県内・国内の需要喚起から始めるべき
県内の交流人口の拡大施策が必要
広域的な同時イベント開催など集客力アップの取組が必要
今後は着地施策を中心にすべき
サイクルツーリズムの取組が必要
事業継続のための取組が必要
地元の人が地域の魅力を知り、発信することが重要
情報を集約する場が必要
体験型観光等が必要
地域の周遊型観光コースをターゲットに応じて商品化すべき
東北地域内を対象とした支援が必要
二次交通への対応が必要
マイクロツーリズムのチャンス
体験型コンテンツの整備が必要
地域の魅力アップや職員のおもてなし教育が重要
旅行しやすい環境や雰囲気づくりが必要
観光機運の醸成

取組の視点
<b>県内流動促進・旅行者とのつながり強化</b>
【各圏域のアイデア例】
(全体) ○中止イベントの再開等への支援
(仙南) ○朝方観光へのシフト(景観、朝風呂、朝食、ランチ) ○手段としてのサイクルツーリズムの取組 ○観光ポータルサイトの作成による情報発信 ○蔵王の自然を活かした体験「コト」観光
(仙南、気仙沼・本吉) ○県南と県北の観光交流・ツアー造成
(仙台) ○博物館・美術館等の公共施設や公共交通の無料化 ○地元住民によるSNS発信の取組 ○地元の人が観光マンとなるような機運醸成の取組
(大崎) ○三密回避のためのバス利用への大幅な助成 ○地元の人が地域の魅力を知ってもらう取組 ○東北六県旅行への支援の取組 ○観光地への誘客の取組への支援(休前日の花火等) ○観光のCM作成・放送
(栗原) ○栗原地域の観光コンテンツの開発 ○圏域内で完結する観光の充実 ○田植え体験等地元のモチベーションが上がる取組 ○栗原のお酒を楽しむ知識を得るツアー造成
(登米) ○クラウドファンディングの割り増し ○観光の地域活動・まちづくりリーダーの養成 ○登米の風土マラソンと連動した農業体験や観光地への誘導・宿泊につながる取組
(石巻) ○石巻の食(海産物)を活かした観光の取組 ○東松島市の「SDGs未来都市」「スポーツ健康都市宣言」、防災観光教育施設を活かした観光の取組 ○「食」をテーマとした広域的なイベント開催 ○地域の観光スポットのコース化 ○二次交通を利用してもらえるコースづくり ○地域の特性を活かした体験コンテンツ(ワカメ収穫等) ○旅行しやすい雰囲気作りや機運醸成の取組(休暇の分散化等) ○複数の航路の乗継の仕組の整備



